

人と緑にやさしい街づくり

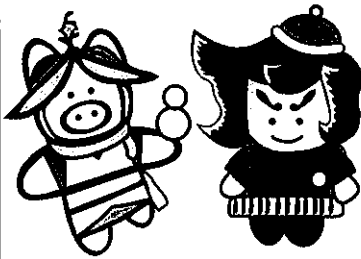


ニュース しんまち

No.261

発行
青森市新町商店街振興組合
広報委員会
住所：青森市新町二丁目6番27号
電話(017) 4775-4134
FAX (017) 775-4193
E-mail sinmat1@jomon.ne.jp
URL <http://www.jomon.ne.jp/~sinmat1/>

『あおもり雪灯り・あおもり冬まつり』開催



●あおもり雪灯りまつり (1月25日～27日)

冬の中心市街地の夜を楽しむイベントとして市観光課が主催、今年で3回目となった「あおもり雪灯りまつり」。

駅前公園では、大かまくらや願いのキャンドル制作展示コーナー、中でも雪見屋台は中心商店街女性部などによるホットアップルパイ・ホットワインを始めとするあったかメニューの提供販売で賑わい、

ワ・ラッセ西の広場ではベイブリッジのライトアップをバックに幻想的なライティングが連なり、中心商店街でも新町通り及び昭和通り、パサージュ広場などを会場に、様々なキャンドルライトを生かしたイベントが展開され、これまでにない多くの人出で、夜の中心市街地が賑わいました。また、ワ・ラッセ～アスパム間では乗合馬車の運行が行われ、新町通りをのどかに馬車が行く珍しい光景も見られました。

こんな中、青森商工会議所・青森市中心市街地活性化協議会の「中心商店街にぎわい創出事業調査研究事業」で新町商店街を担当した青森大学の学生たちが、当初、新町通り「雪の回廊イベント」において人手不足でキャンドル設置の予定がなかった区域を自発的に担当してくれ、結果すべての街区をライトアップすることができました。感謝！感謝です。

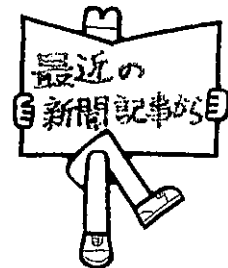
●あおもり冬まつり (2月2日～11日)

これまで合浦公園で開催されていたものが、今年から中心市街地に会場を移し、八甲田丸を主に、ワ・ラッセ周辺、青い海公園、駅前公園、パサージュ広場などで様々なイベントが実施されました。駅周辺ではそりや滑り台遊びを楽しむたくさんの子供たちの歓声が響く中、ここでも中心商店街女性部の協力による「焼き立てアップルパイ」提供など、様々なグルメも人気を博し、にぎわい創出に一役買っていました。また、夜には新町通りの青いイルミネーションが幻想的な演出効果を加え、道行く人々が楽しんでいました。

企業主導でスピード感 今冬まずイベント

オール静岡市で中心街振興

静岡県内で最大の商業集積地である静岡市中心街を、企業や行政や団体、住民を巻き込んだ「オール静岡」で活性化しようという動きが出てきた。これまでの活性化策に比べてスピード感や目的が明確なのが特徴。中心街の将来の地盤沈下に対する危機感を立場を超えて共有し始めた事が背景にある。



「福岡市の天神地区のようなことができないかという考えが発端」。5月に静岡鉄道、静岡銀行、静岡伊勢丹など大型店、商店街、商工会議所などで発足した「I LOVEしずおか協議会」(会長・森恵一日専連静岡社長)の関係者は言う。

天神地区は2006年、西鉄など地元企業や住民、行政などによるまちづくり推進組織として協議会を設立。まちづくり憲章やガイドライン制定に始まり、まち歩きツアーやクリスマス装飾などに成果を上げてきた。

静岡も天神にならい、第1弾として今冬、にぎわい創出策に乗り出す。クリスマスツリーの一斉点灯や街中のイルミネーションの充実、スケートリンクの特設などにより、「回遊性を高め、集客力を向上する」(静岡伊勢丹の松村彰久社長)。

市中心街での市や各商店街主体の取り組みは多いが、「オール静岡の取り組みは初めて」(同協議会の事務局である静岡市まちづくり公社の小股芳太郎理事長)。最も違うのはスピード感だ。

昨年末に構想が持ち上がり、5月から協議会で施策を詰め、11月末から実施という日程は「行政主導では無理」(小股理事長)。参加企業が部会ごとに毎週数回ずつ会議を開き、準備を急ぐ。

「商店街だけでできる活性化策が限られてきたなかで大変期待できる」とある店主は評価。商工会議所幹部も「各企業のやる気の度合いが従来とは違う」と指摘する。県内で静岡は中心商店街に元気があるほうだが、将来の衰退への不安に加え、東静岡地区で来春開業予定の大型商業施設の影響などが危機感を高めている。

ただ、天神のような将来ビジョンや今後の計画は詰まっていない。事務局は現在の市公社から民間に移す構想だが、体制作りなどの検討も来年以降になる見込み。「将来何をしたいのか分かりづらい」という声も商店街からはあがる。

協議会では正会員(年会費1口5万円)と賛助会員(同1万円)を募集し、今年度500万円強を目標に活動資金集めの最中だ。まずは冬のイベントが集客増にどれだけつなげるかが問われる。(平成24年10月8日付:日経MJより転載)(堀江)

どう見られている？我が商店街(195)

～冬の“静”のお祭り～
スピリッツネットワーク／エ 廉 健



1月25日～27日の三日間行われたあおもり雪灯りまつり。昨年に引き続きパサージュ広場で棒パンを振る舞っていましたが、二日目・三日目と集まるお客様がだんだん少なくなって、最終日には準備した棒パン100食がほんの15分で終了。新町通りもたくさんの方が歩き、冬の青森の夜を楽しんでいたようです。

青森市は雪国です。この冬という季節、ここに暮らす私たちにとっては時に真冬日が続く厳しい寒さと世界有数の豪雪都市と言われる雪の量と、行政も市民もその除雪にかかる経費と労力の大きさも含め日常生活の中ではどうしても厄介者、負のイメージがあります。

でもその雪も、日常からちょっと離れて、夜の街で観る「雪灯りまつり」で、しばし冬の苦勞を忘れさせてくれるようです。

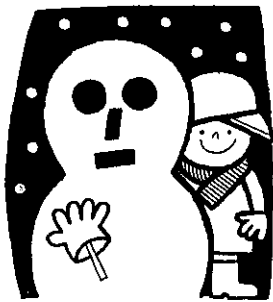
特に、ワラッセ横の雪灯り広場はたくさんのボランティアの皆さんにも協力して頂いて様々な雪灯りが灯されています。その思い思いのメッセージと手作りの連なりが、ライトアップされた青森ベイブリッジと冬に溶け込むような白い壁のA-factoryを背景に、雪を通して浮かぶたくさんのオレンジの灯(ともしび)とともに観る人の胸を打ちます。

それはきっと、ある人にとっては息をのむ美しさであって、ある人にとっては雪の優しさと感じ、ある人にとっては隣にいる人の温もりとなり、また、ある人にとっては祈りと共に思いを寄せる鎮魂であるのかも知れません。灯りの間を縫うように歩きながら、いつの間にか言葉少なに、灯りに魅せられるように立ち止まる人の影があります。

多くの人たちの思いが、夜の浮かぶ白い雪の灯りに込められて、青森の冬の夜を静かにライトアップしているように思えます。

その静けさと、美しさと、優しさと、穏やかさに心を打たれて、しばらく立ち尽くしていました。

青森らしい、青森ならではの冬のお祭り、雪の静けさが似合う心に残るお祭りだと思います。



『しんまち雪だるまロード2013』開催

新町商店街振興組合青年部 北澤 卓(成田本店)

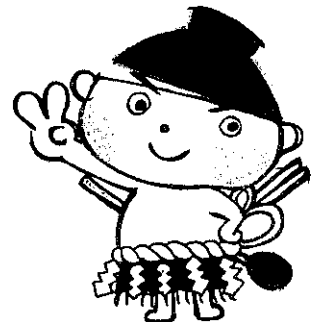
1月24日(木)わが社で毎年参加している雪だるまの製作をしました。わが社4人の精鋭隊で今年は作ります。しかし、いざ作製しようと現場に降り立つと「雪がない…」急いで近くの雪をかき集めました。急遽アーケードの上に登り、雪を下ろす作業からスタート

し、下に雪の塊ができてから形を作っていくことにしました。わが社今年の雪像テーマは「ドラ○もん」に決定し、座ったり、立ったりしている姿は良くありがちな形だったので、今回寝そべった状態にすることにしました。ある程度の塊から肉付けをしていき、少しずつ形ができてくると、通りを歩くお客様に「ドラ○もん」だ、「かわいい」などとおっしゃっていただき、作製陣のテンションも上がってきます。形が決まってくると、もっと完成度を上げたくなり、白のまままで完成とせず雪像に色をつけることにしました。着色方法は、ポスターカラーを水で薄め霧吹きで吹きかけます。白い状態でもかわいげがありましたが、着色することにより親近感もてた気がします。最後に割り箸を黒く塗りひげをつけて完成です。翌日完成した雪像を老若男女のお客様がカメラに収めていただくのを見ると、作製してよかったなと思いました。雪像は一時的なものなので、よりお客様も記憶に留めていただけたのかもしれない。来年は今年よりもっと良い作品にしたいと思いました。

目指せ！第二代「鍋横綱コンテスト」開催

青森市中心商店街女性部 事務局長 伊香佳子

2011年2月に開催され、大変な人出で大好評を博した「鍋横綱コンテスト」が、要望に応じて今年も青森市中心商店街女性部の主催で2月3日(日)正午から夜店通りを会場に開催されました。生憎の猛吹雪でしたが、鍋を堪能するには絶好の日和で、また前回同様1杯100円で審査試食に参加できるという、女性ならではのグルメ心をくすぐる企画も功を奏し、11団体の参加に対して前回以上の人出となり、鍋=食のイベントはパワーに満ち溢れていました。



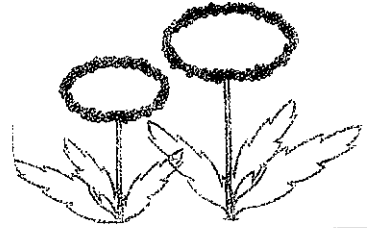
今回は震災復興イベント応援事業として(県東青地域県民局の委託)、被災地である岩手県宮古市・宮城県女川町・福島県郡山市そして青森県八戸市からの特別出店が中心となり、特に八戸せんべい汁を除いて、こうした街おこしイベントに鍋で参戦するのは初めてということで、各地時間をかけて吟味したメニューが大人気となり、今後の復興への取組にいいヒントを持ち帰って頂けたようでした。

審査委員長の山田東青地域連携部長を始め、甲乙付けがたい鍋に審査員一同苦しみながらも、公正な審査の結果、第二代鍋横綱には「善知鳥やすかた仕掛け人」が選ばれました。

【さんぽぽ運営委員会】開催「さんぽぽ」

さんぽぽ運営委員会運営委員 工藤健

つどいの広場「さんぽぽ」運営委員会が行われました。0歳から3歳児の子供と保護者が利用の中心で、人口としての子どもの数は減っているのですが、ここの利用者は年々増える傾向にあります。季節的な変動はあるものの、1日約70名が利用しています。



顔なじみになっている方もいらっしゃいますが、最近は青森市外からいらっしゃる方も多ようです。アウガというビルの特性もあって、ワンストップでショッピングも楽しめるという魅力もあるようです。

さらにお父さんが一緒に来るということも増えています。“イクメン(育児男子)”、家庭の中でのワーク・ライフ・バランスも静かに進んでいるのかも知れません。

「さんぽぽ」で行われている行事や講習会も月によって様々ですが、利用される方々の毎月の情報交換会や年二回の乳幼児健康講座は人気があります。相談の内容はやはり乳幼児だけに「離乳食」「おむつ」「夜泣き」についてが多いようです。

24年度は「ひろばコンサルテーション事業」の全国10の実施団体のひとつに選ばれ、スタッフの研修を行いました。関わっている皆さんの熱意が伝わります。

フロアに座って、委員の皆さんと子どもたちが歩き回る目線での運営委員会。お母さんやお父さんが我が子を見守りながら、時間を過ごし、相談や体験の情報を交換する。その様子を思い浮かべて、少し昔を思い出しながらの委員会でした。

車上ねらいに注意!



市内各所で、荷物配送中の車両、保育所送迎中の車両、温泉駐車場の駐車車両等をねらった車上ねらい事件が多発しています。(新町通りでの発生もあります。)

車両から離れる際は確実な施錠をお願いします。

車両のガラス破りによる被害もあります。車内には貴重品を置かないようにし、不審者・不審車両を見掛けたら110番をお願いします。(担当:福士)

平成24年「安心・安全まちづくり」警察協力功労者感謝状を頂きました

1月28日、青森グランドホテルで開催の贈呈式で成田理事長が感謝状を頂きました。